

10月13日は 麻酔の日。



快挙！日本人医師、
華岡青洲が
世界初全身麻酔に成功。

青洲肖像、臈溪画、個人蔵

むかしむかし、
手術がものすごく
痛かった頃のお話。

今から212年前の10月13日、
西暦1804年、江戸時代の日本で、
世界初の「全身麻酔」による乳癌摘出手術
が成功しました。偉業を成し遂げた日本人
医師の名は華岡青洲。

手術といえば、激烈な痛みとの戦いだった
この時代、妻や母の協力と、真摯な医療へ
の姿勢で取り組んだ青洲の人生は、
有吉佐和子著の「華岡青洲の妻」という
小説に描かれ、何度も映像化されています。

西洋での成功例は、青洲の成功から
40年後の、1846年、アメリカの
ウィリアム・グリーン・モートンの
エーテルを使った全身麻酔下の手術となり、
青洲の成功は正に世界初、前例のないすば
らしいものだったといえるでしょう。

大げさに言えば、
人類が手術の痛みから解放された、
歴史的な日だったわけです。

この成功を記念し、日本麻酔科学会が
10月13日を「麻酔の日」と制定しました。



公益
社団
法人

日本麻酔科学会

Japanese Society of Anesthesiologists